

横浜市立嶮山小学校 学校評価報告書（平成26年度）

		平成26年度	
共通取組 重点取組	具体的取組	自己評価結果(☆成果・課題)	総括
1 確かな学力	<p>○重点研究の授業研究会(今年度は年4回)と指導主事等の講師招聘で指導や評価の方法を研究する。</p> <p>○授業時数及び余剰時間の確保で指導内容の充実を図る。</p> <p>○毎週火・金曜日の学習スキルの内容を学年で計画を立て、設定で基礎基本の定着を図る。</p> <p>○国語算数中心の毎日の宿題を出すことで基礎基本の定着を図る。</p> <p>○毎週水・木曜日の朝読書タイムは15分間を確保し、読解力や情操面の向上を図る。</p> <p>○出前授業の実施で魅力ある、また実感を伴った学びを提供する。</p> <p>○特別支援非常勤・生活支援ボランティア・学生保護者ボランティアの活用で学習活動の充実を図る。</p>	<p>☆総合的な学習の時間・生活・音楽の学習指導の方法について研究を深め、児童の主体的な問題解決学習につなげた。</p> <p>☆朝のスキルタイムの15分間確保や校時表の工夫、行事精選で指導時間の確保と内容の充実が図られた。数確保でき充実を図っている。</p> <p>☆各学年で漢字や計算プリントを作成し取り組んだ。さらに継続していく。</p> <p>・読書は、少しの空き時間で読めるよう、本を常に持つ週間をつけた。自分の読みたい本を持ってくる。</p> <p>・出前授業は、見通しをもった計画を立てる。研究会や研修などで出前授業があったら随時紹介していく。さらに、今年実践した出前授業を打ち合わせ等で紹介していく。☆個に応じた指導を手厚くした。</p>	A B C D
2 豊かな心	<p>○児童指導担当職員を中心にYPアセスメントシートの複数教員による分析と活用を通して子どもたちのよりよい人間関係作りを目指す。</p> <p>○人権週間での人権講演会をはじめ、様々な活動を通して日常生活における人権感覚の向上を図る。</p> <p>○個別級と一般級の交流を充実させて他者理解を深める。</p> <p>○芸術鑑賞教室・校内図工展・うたごえハーモニー等の実施により多様な考え方やよさを認める子の育成を目指す。</p> <p>○キッズ活動(全校遠足・月1回の交歓給食・運動会等)を推進し、相手のことを考え行動する子を育てる。</p> <p>○地域の教育力を生かした学習活動に継続的に取り組むことにより地域や人を愛する心情を育てる。</p>	<p>・YPアセスメントは学年では話し合いをもったが、ブロックでは深められなかった。時間をしっかりと確保していく。</p> <p>☆人権週間の取組はよかった。・日々の継続した指導が大事。</p> <p>☆個別級と一般級の担任の連絡も密に取った。</p> <p>☆各行事への参加態度はよく互いのよさを認めることができた。</p> <p>☆月1回の交歓給食も1年間を通して実践でき、きょうだい学年の相手との触れ合いが深まった。</p> <p>☆キッズ活動や地域教育力の活用を行うことで、高学年には思いやりの気持ちや地域への愛着の気持ちが出てきた。</p>	A B C D
3 健やかな体	<p>○30分の中休みの確保と週1回の学級全体で遊ぶ日を設定し、外遊びを促進する。</p> <p>○月1回のなわとび朝会、2月のマラソン大会の実施により体力の向上を図る。</p> <p>○「歯と口の健康づくり年間計画」に基づき、健やかな体を作る素地を育てる。</p> <p>○養護教諭による歯みがき学習を実践し、健やかな体を作る素地を育てる。</p> <p>○給食時間に担任や栄養士が栄養のバランスの大切さを意識しながら、食の大切さについて指導する。</p>	<p>☆学級での週1回の外遊びを担当が意識し、実践するクラスが増えてきた。</p> <p>☆なわとび集会や、マラソンの練習など、体力を意識した活動が増えてきた。</p> <p>☆歯の優良校の表彰を受けた。歯みがきについては、歯の健康状態が昨年度よりも良くなってきたので、引き続き来年度も年間計画に基づき実践していく。</p>	A B C D
4 教育課程 学習指導	<p>○パワーアップ研修(教員相互の授業の見合いとその後の協議)の実施を通して授業技術の向上を図る。</p> <p>○総合的な学習の時間・生活科の教育課程の見直し・検討と指導方法研究により子どもたちの問題解決場面を増やす。</p> <p>○学年暦の作成・修正により、よりよい教育課程作成を目指す。</p>	<p>☆パワーアップ研修以外にもメンターを実践しているが、そのメンターの時間にメンター以外の参加を促すとさらに良い。</p> <p>・学年暦の見直しがされていない。教科書が変わる際に、しっかりとチェックしていく必要がある。</p>	A B C D
5 児童・生徒 指導	<p>○「嶮山スタンダード」を保護者に配布することにより、共通理解と生活習慣の徹底を図る。</p> <p>○「嶮山スタンダード」を全教職員が理解し、一貫した指導を行う。</p> <p>○月生活目標の振り返りの話し合いと、朝会時の発表を通して、意識化と生活習慣の徹底を図る。</p> <p>○月1回の職員会議後に行われる児童指導全体会の開催を軸に、児童が安心して朗らかに過ごせる学校を醸成する。</p>	<p>・次年度に向けてスタンダードの内容を検討する必要がある。教職員間でも読み合わせを行い、共通理解を徹底する。</p> <p>・月間生活目標を普段から意識して生活する機会が少なく感じたので、より児童が意識できるような方法を探る。</p> <p>☆児童指導については、児童支援専任ができた。今年度同様児童が安心して過ごせる環境をつくっていく。</p>	A B C D
6 地域連携	<p>○年1回の地域公開授業・うたごえハーモニーの地域公開を通して地域との連携を図る。</p> <p>○運動会ポスター掲示・招待状・地域参加競技の設定等により、地域連携を図る。</p> <p>○地域教育サポーターの協力の下、地域の教育力の授業展開を行い、地域連携を図る。</p> <p>○地域清掃を地域の人と共に行い、地域と相互の関係を築く。</p> <p>○職員の地域行事参加により、地域との協働を図る。</p>	<p>☆地域公開授業・うたごえハーモニーへ多くの地域の方・保護者に来校していただいた。</p> <p>☆実施できた。招待状を出した方へは年賀状を出すことへと継続した活動ができた。</p> <p>☆地域コーディネーターの方の協力していただき計画的に行えた。今あるつながりを大切にしていきたい。</p> <p>・地域清掃に関しては一生懸命実践していた児童が多かったが、さらに時間を確保するため、来年は15分余計に計上する。</p> <p>☆祭りや運動会・もちつき大会に分担して参加した。</p>	A B C D
7 教育環境 整備	<p>○ごみの分別を細かく行い、環境への意識化を図る。</p> <p>○花壇の年間計画と整備を行い、自然環境への興味関心を深める。</p> <p>○教室環境の整理、整頓を心がけ、物の管理をこまめに行う。</p> <p>○地域清掃の実施により、地域の環境に関心をもつ。</p>	<p>☆ごみの分別では、環境委員会によるチェックを復活させた。</p> <p>☆ユニバーサルデザインの視点で教室の前面の環境を整えることができた。今後も児童が安心して過ごせる環境作りを学校全体で取り組んでいく。</p>	A B C D
8 人材育成 ・ 組織運営	<p>○重点研・協議会の実施で力量の向上を図る。</p> <p>○特別支援教育・児童指導全体会等の研修や協議会の実施・情報共有で教職員の力量を上げると共に適切な指導、支援をできるようにする。</p> <p>○ブロック学年研で話し合う内容を決めるなど学年研を充実させ、チーム力を磨き、意欲の醸成を図る。</p> <p>○メンターチーム会議を月1回実施し、相互に学び合っ力量を高め、人材育成を図る。</p> <p>○部会議と連絡調整会議・職員会議の連携を通して、効果的組織的な学校運営を図る。</p>	<p>☆いじめや特別支援、ユニバーサルデザインなど教職員間の力量を向上させるため研修を行ってきたので、来年度も別のアプローチの仕方で研修を実践し、深めていく。</p> <p>・反面、職員会議の終わりに児童指導全体会を設けたが、他学年にはわかりにくいことも多かったので、改善する必要がある。</p> <p>☆重点研究や児童指導の研修は効率的に運営され、かなり充実していると思われるので、来年度も継続して取り組んでいく。</p> <p>☆連絡調整会議で職員会議での提案者が説明し、検討することにより、職員会議の効率化が図れた。</p>	A B C D
小中一貫教育推進ブロック内相互評価結果	<p>・地域行事に嶮山小職員が、土日であるにもかかわらず、みんなに参加していこうという姿勢で臨んでいるのが素晴らしい。</p> <p>・歯の優良校の表彰を受ける程、取組が熱心で家庭にも浸透しているようだ。</p> <p>・ユニバーサルデザインの視点での取組が組織的に行われている。</p> <p>・学校・地域コーディネーターがかかわって教育活動がより活発になったようでとてもいい。うらやましい。(以上 他校からの評価)</p>		
学校関係者評価結果	<p>学校の中期目標に対する25年度の一年間の取組の進捗状況と目標に対する達成度が把握できた。ほとんどが自己評価Bで、順調に取組が行われているようである。来年度も引き続きこの調子でお願いしたい。ブロックの課題として、小中一貫のカリキュラムが児童の実態に即したものになるよう引き続き改善を進めてほしい。</p>		
評価結果に対する学校の見解	<p>ブロック内相互評価により、学校間の取組状況の相違点がよく分かり、お互いの学校経営の学ぶべき点が明らかになってきた。今後も、教務主任レベルでの相互評価は、積極的に取り入れていきたい。学校関係者評価については、隔月の学校運営協議会を通して、学校の取組状況を常時説明しているため、学校の自己評価が適切に伝わっており、その上での関係者評価が得られているといえる。真摯に受け止め今後の学校経営に生かしていきたい。</p>		
学校経営中期目標達成状況	<p>3年先の目標に向けての二年目の取組は、B評価以上である。中期目標に達成に向けて二年目の取組としては、おおむね成果をあげたといえる。児童・生徒指導については、「嶮山スタンダード」をもとに、教職員が一枚岩になって、児童の生活指導にあたるよう共通理解すると共に児童理解研修の機会を積極的に設けていくこととする。</p>		